

甲斐市立玉幡中学校 学校関係者評価書

令和2年2月3日（月）

（玉幡中学校）学校関係者評価委員会作成

第2回 学校関係者評価委員会

実施日：令和2年1月31日（金）午後7時～

会 場：玉幡中学校 応接室

参加者：学校関係者評価委員；小林幸雄，太田節子，望月智和，望月 守，金子智子
学校側；校長：新海直仁，教頭：清水岳人，教務：河西よしみ，生指：中澤康夫

I 学校側から提案された内容

- ・学校の全体の様子
- ・自己評価結果の説明
- ・生徒指導に関わる取組状況について

II 協議された主な内容

- ・教職員による自己評価の集計結果及び生徒・保護者アンケートの集計結果をもとに項目ごと結果分析，考察，改善策を提案し，質問，意見，アドバイスを頂いた。
- ・今日的教育課題，本校における課題について協議し，本校の実態把握及び共通理解のもと，次年度に向けての方策や今後の方向性について話し合った。

< 学校関係者評価書 >

I 全体評価

- ・教職員，保護者，生徒アンケートをもとに考察し，説明を行った。

II 特 徴

・スマホやPCの所持率がほぼ100%の時代，スクリーンタイムの増加は喫緊の課題である。これは学力向上への弊害はもとより，コミュニケーション能力の欠如になりかねないという指摘があった。学校としても，その点に十分に配慮し，褒める指導，教師の指導力向上，教師と生徒間の人間関係の構築，家庭への啓発活動，外部講師を招いての研修会の実施などを適宜効果的に実施していくと報告があった。

・大量退職者による若手教員の増加に伴い，より一層教師の資質能力の向上を図っていくことの重要性が指摘された。また，生徒の中には様々な理由から登校できず，不登校になったり，孤立してしまったりする生徒がいる実態を踏まえ，一人一人の生徒に目を向け，しっかり寄り添うことが大切であるとの意見が出された。

・生徒指導等に関しては，教員が一人で課題を抱え込むことのないよう，生徒指導部会や支援委員会，学年部会や職員会議等で情報共有を行い，組織的な対応に努めているとの説明が学校からなされた。また，課題を抱える生徒に対しては，保護者との連

携を密にし、複数での対応を心がけていると報告があった。また、その様子を生徒指導部会や支援委員会、職員会議等で共有し、共通理解が図れているとの報告があった。

・本校にはスクールカウンセラーが週1回勤務しており、生徒・保護者がカウンセリングを受けられる体制が整っていること。さらに、甲斐市の家庭相談員、民生児童委員、児童相談所、スクールソーシャルワーカー等に繋げ、ケース会議を適宜必要に応じ開催するなどし、誠意とスピードをもって学校体制の中で丁寧に取り組んでいるとの報告があった。今後も地域や関係機関との連携を図り、取り組んでいくことを全体で確認した。

・SNS問題、性行不良、不適応生徒など、家庭環境に起因する生徒指導事例が少なくない昨今、学校としても大変懸念しているところである。全ての事例に対して学校だけでは解決できないこともあるが、実際に学校に来ていない生徒が学校外で犯罪に巻き込まれる可能性もあるというご指摘の中、そのような生徒の動向をつぶさに観察し、未然防止に努め、迅速に対応できるよう、教育相談の実施や生活実態アンケートの結果を有効活用するなど効果的な対応を継続していくとの説明があった。

・不登校に関しては、遅刻の回数に着目したグレーゾーン生徒への組織的対応を軸に、不登校部会で情報共有し、担任以外の教職員も関わる複数対応を心がけた。また、対話を基本とした生徒理解に努め、安全安心な学校風土を醸成し、不登校生徒の人数を減らすよう問題解決に向けて積極的に取り組んでまいりたいとのお話しがあった。

・生徒と教師のコミュニケーションがとれない背景には教師の多忙化があると思われる。多忙化の要因には部活動が大きなウェイトを占めているが、負担を減らすために外部指導者や部活動指導員の活用について、玉幡中ではどのような状況にあるか等を含めた部活動に関する質問がだされた。それに関して、県の割り当ては非常に少数ではあるが、なぎなた部の指導員については部活動指導員として正式に認定されており、公式試合等においても引率をお願いしている。また、保護者や競技経験者による部活動指導をボランティア（バレー・バスケット・バドミントン）という形で指導に当たって頂き、質の高い効果的な部活動運営に努めているとの報告があった。また、本校では県及び市の部活動ガイドラインに沿った活動を推進しており、来年度も引き続き合理的で質の高い部活動を目指していきたいと説明がなされた。そして、教師数減が見込まれる今後については、部活動の精選や再編成を念頭に、部活動の外部指導者との連携強化、顧問の指導力向上に向けた取組の充実、部活動に対する基本的な考え方や学校としての統一したスタンスの共有、部活動の在り方についても継続的に議論を深めていくことで確認がなされた。

・ここ数年、玉幡中の生徒はあいさつをよくするようになってきている。大変素晴らしいことなので、今後も継続して取り組んでいってほしいという話がなされた。

・先生方の多忙化の問題もあるが、学校開放日やPTA活動、各種行事等で地域の方や保護者が来校し、生徒の様子を見てもらう機会は重要であるとの意見が出された。現在、本校の教職員が地域に出て行くことがほとんどない中、やはり地域で活躍する子

どもを見取り、その姿を認めることで、子どもの自己肯定感を育むことにもつながる。よって、今後とも子どもたちの健全な育成を図っていくためにも、学校と地域と家庭が連携・協働しながら、取り組んでいくことを確認した。

・生徒の歯の治療状況について、養護教諭よりデーター化した資料が提出された。その中で要受診者が多数いるにもかかわらず、医療機関へ受診する生徒が少なかったが、ここ数年、三者懇談や家庭訪問等で保護者への働きかけや啓発のためのお便りを発行する中で増加傾向にあり、本年度は過去最高数値の 31.6%となった。今後とも養護教諭が中心となり、小中の連携を図りながら、医療費が無料である中学校までに治療をするよう、学校からも継続的に家庭に働きかけてほしいと学校歯科医の小林医院長よりお話がなされた。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・OJT や校内研修を通し、若手教員の資質能力の向上を図っていくこと。
- ・アンケート結果に表れない、生徒への指導や対応について気を付けていくこと。
- ・家庭教育力の向上に向け、関係機関との連携を図っていくこと。
- ・養護教諭が中心となり、歯の治療に関する医療機関への受診を推し進めていくこと。
- ・教職員の多忙化解消に向けた取組を行っていくこと。

※ 特記事項

- ・甲斐市教育委員会指定「確かな学力の向上」推進事業への取組を通し、教師の授業

力及び生徒の学力向上に大きな成果が得られた。

記載責任者（甲斐市立玉幡中学校 学校関係者評価委員）氏名： 小林 幸雄 印